

鶏肉情勢

令和2年1月6日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会12月下旬実施)によると、11月の推計実績は、処理羽数61,323千羽(前年比103.1%)・処理重量185.2千ト(同104.6%)と羽数・重量とも前年を上回り、前月時点の計画値(処理羽数同102.5%・処理重量同102.6%)からも大きく上回った。12月計画を含めた2019年の年間計では、離不足が懸念されたものの処理羽数711,444千羽(同102.1%)、処理重量2,123.2千ト(同102.7%)と共に前年を上回る見通しとなった。なお、11月の生鳥処分は廃棄合計3.48%(前年差△0.09%)となっている。 (2) 1月-2月計画では、1月は処理羽数(同104.5%)・処理重量(104.1%)、2月も処理羽数(同106.9%)・処理重量(同107.3%)、大幅に上回る見通で、2月は閏年の影響もあるが、南北の主要産地中心に高い伸びとなっている。(併全国食鳥新聞社が実施した「経営トップ景観調査」によると、2020年の業界全体の「生産量」は「増える」ないし「少し増える」の予想が多く、荷受は8割を超え、インテでも「増える」は8%だが「少し増える」が6割と、前年までの生産処理設備の整備が進み、来年度も増加を見込む向きが多いことを反映している。と分析している。一方需要面では、鶏肉は経済志向、健康志向などにマッチし堅調な傾向は維持するものの、伸び率が以前より鈍いとの予測から潤沢な供給に対する需要拡大策が課題になる年と考えられる。
	2. 輸入 (1) 財務省が12月26日に公表した貿易統計によると、11月の鶏肉(原料肉)輸入量は48.8千ト(前年比113.1%)で、日本食肉輸出入協会の予測(47.8千ト)を約1.0千ト上回った。国別ではブラジルが予測を約0.1千ト上回る36.1千ト(同117.2%)、タイも約0.7千ト上回る10.7千ト(同101.7%)となった。同協会(12月19日取り纏め)によると12月44.6千ト(同94.9%)・1月41.9千ト(同99.8%)と予測されており、「畜産物全般にわたり消費の伸び悩み傾向がみられ、鶏肉も国産品が安定的な生産状況が続くなかで相場回復に至っていない。輸入品もブラジル産、タイ産ともに価格が動いていない状況。さらに満杯にある倉庫事情もあり、今後春先に向けて輸入品をどのように手当てしていくのか悩ましいところ。」とコメントしている。しばらくは、アジア地区におけるASF等の影響、特に豚肉・鶏肉が絶対的に不足とされている中国の動向が注目される。 (2) 鶏肉調整品の11月輸入量は45.2千ト(前年比90.3%)と、前月よりは0.3千ト減少した。中国産は、約1.0千ト増の16.5千ト(同82.3%)、タイ産が反対に約1.2千ト減の28.0千トと前年比でも95.2%と下回った。1-11月累計でも465.5千ト(同99.6%)となっている。中国においてはASFの影響で一部自国向けに回っているとの報告もあり、月によって多少の増減がありつつも当面はこの傾向が続くものと考えられる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、10月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,769g(前年比97.3%)、金額は5,389円(同94.4%)となった。消費税増税による購買意欲の低下、および9月の駆け込み需要による反動等で芳しくなかったことや例年より高い気温が続いたことで冬物商材も低調だったと思われる。牛肉は数量(同86.6%)・金額(同87.7%)とも前年を下回った。豚肉も数量(同98.2%)金額(同98.0%)とも下回った。鶏肉については数量(100.2%)は前年並みに推移したものの、量販店等での特売頻度の増加等により金額(同95.7%)は下回った。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、11月の食品売上高は全店ベースで前年比101.4%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比101.7%・既存店ベースでも同100.3%と前年並みとなった。畜産部門の売上高は1,067億円(同102.6%)、既存店ベース(同101.1%)とも前年を上回った。「錦物用肉は地域の気候条件により好不調まちまちの状況となった。牛肉は相場が上昇しており、輸入牛を訴求する店舗がみられた。総じてしゃぶしゃぶ用肉は動きがよくなったが、CSF(豚コレラ)の影響で国産豚が不振となった店舗もみられた。鶏肉は相場が安定しており好調となった店舗が多い。加工肉は不調とする店舗が多かった。」と報告されている。また、惣菜部門(同103.3%・同102.1%)は中旬まで好天の日が多く、行業需要により米飯類、唐揚げの動きがよくや好調となった。メニューのリニューアルや、季節食材を使ったメニュー提案などの取り組みが成果をあげている店舗もみられた。気温が低下した地域では、ホットメニューの動きがよくなってきている。
需	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる10月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.8%の4,813千トとなった。うち国内物は同103.1%の4,024千トと前年を上回ったが、輸入物は同95.5%の0,789千トと下回った。1-10月累計合計では同103.5%の46,191千トと前年を上回っている。鶏肉加工品は11月以降も需要は堅調で増加傾向は変わらず、国産むね肉価格が比較的低位で安定していることで国産比率が高まっており、さらに国産物での製造量増加を期待したい。
	1. 令和元年10月 (1) 推計期末在庫は国産29.3千ト(前年比101.3%・前月差△0.6千ト)、輸入品137.9千ト(同100%・同+3.4千ト)と合計で167.2千ト(同100.2%・同+2.9千ト)となった。生産量が14.8千ト増加し、輸入量は2.0千ト減少した。国産品の出回りが生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減した。輸入品は出回りが約0.8千ト増加の48.2千トだったため在庫が増加し、前年と同水準となった。
在	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(12月25日公表)では、11月は国内生産量が前月比で約1.2千ト減少、輸入量も前月比で約3.8千ト減少、出回りが前月比で約1.2千ト減少するものの、生産量を上回るため期末在庫は約166.2千トと前月より減少しほぼ前年並みの見通しとなっている。 (2) 12月は前月比で生産量は14.0千ト増加、輸入量がブラジル中心に3.2千ト減少、出回りが8.1千ト増加することから期末在庫は国産・輸入品合計で1.7千ト増加の167.9千ト(前年比105.3%)と予測されている。1月は生産量は20.7千ト減少、輸入量も2.7千ト減少するものの、出回りが23.5千ト減少するため、在庫は1.8千ト増加の169.7千ト(前年比104.7%)と前年を上回る予測となっている。
	1. 12月動向 (1) 12月の平均相場は、もも肉606円/kg(前月比+36円)・むね肉266円/kg(同+4円)正肉合計で872円/2kgと前月比で40円上回ったが、前年比では25円下回った。もも肉は月初め581円で始まり上げ基調で推移したものの、例年より暖かい日が多く鍋物需要が抑えられ、クリスマス需要も低調で、最終相場628円と結果47円高に止まった。むね肉は、価格が上がっている輸入玉を背景に加工用で引合いが増加し、量販店等の特売用で一定需要があったものの、月初263円・月末267円の4円高の保合い圏内での推移となった。
相	2. 1月見通 (1) 気象庁の1カ月予想では、1月の気温は、北日本日本海側は平年同様曇りや雪の日が多いが、その他の地域では平年より暖かいとしている。鍋物需要にも影響が懸念され、出荷数量増の予測のなかでも肉は月平均600円と若干の下げと予測する。むね肉については、加工筋の引合いも堅調で保合い圏内で月平均260円と予測する。

実績										
生産状況										
単位:千羽、千ト、%										
履歴	R元年11月推計実績		R元年12月計画		2019年計		R2年1月計画		R2年2月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	61,024	100.9%	67,302	102.3%	756,236	102.0%	65,784	101.2%	61,536	105.6%
処理羽数	61,323	103.1%	66,017	102.5%	711,444	102.1%	59,341	104.5%	59,546	106.9%
処理重量	185.2	104.6%	196.4	103.0%	2,123.2	102.7%	175.7	104.1%	176.8	107.3%

※参考資料: 全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向													
単位:千ト、%													
履歴	品名			鶏肉			調製品			合計	比率		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比			当年	前年
R元年8月	50.5	50.8	99.4	42.0	43.1	97.4	92.5	93.9	98.5	54.6	45.4		
R元年9月	53.6	40.2	133.2	41.1	38.2	107.7	94.7	78.4	120.8	56.6	43.4		
R元年10月	51.6	54.4	94.8	45.5	50.5	90.1	97.1	104.9	92.6	53.1	46.9		
R元年11月	48.8	43.2	113.1	45.2	50.0	90.3	94.0	93.2	100.9	51.9	48.1		
R元年累計	518.0	513.3	100.9	465.5	467.6	99.6	983.5	980.9	100.3	52.7	47.3		

※参考資料: 全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)							相場(年別・暦年)			
単位:グラム、円、%							単位:円			
履歴	数量			金額			H26年	もも肉	むね肉	計
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R元年8月	1,244	1,285	96.8	1,121	1,163	96.4	H27年	639	336	975
R元年9月	1,343	1,368	98.2	1,242	1,302	95.4	H28年	621	255	876
R元年10月	1,483	1,480	100.2	1,312	1,371	95.7	H29年	626	315	941
R元年平均	1,384	1,364	101.5	1,267	1,287	98.4	H30年	595	282	877
							R元年	585	243	828

※参考資料: 総務省統計局HP

在庫状況										
単位:千ト、%										
履歴	国産			輸入品			合計			
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	
R元年7月	29.0	28.5	102.1	127.6	139.5	91.4	156.6	168.0	93.2	
R元年8月	28.7	28.9	99.4	128.2	140.1	91.5	157.0	169.0	92.9	
R元年9月	29.9	27.8	107.4	134.5	135.0	99.6	164.3	162.8	100.9	
R元年10月	29.3	28.9	101.3	137.9	137.8	100.0	167.2	166.8	100.2	

※実績参考資料: 畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別)										
単位:円、%										
履歴	品名			もも肉			むね肉			正肉合計
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	
R元年9月	544	550	98.9	235	265	88.7	779	815	95.6	
R元年10月	556	570	97.5	254	270	94.1	810	840	96.4	
R元年11月	570	588	96.9	262	274	95.6	832	862	96.5	
R元年12月	606	618	98.1	266	279	95.3	872	897	97.2	
R2年1月	(600)	648	92.6	(260)	271	95.9	(860)	919	93.6	
R2年2月	(580)	650	89.2	(260)	256	101.6	(840)	906	92.7	
R元年平均	585	595	98.3	243	282	86.2	828	877	94.4	

※()は見通し
※1-12月平均